

第六十九回県川柳大会選考結果

特別選 「群れる」

◎人 位

群れにいて手拍子だけがうまくなる

杉山 昌善 氏 選

八 戸 豊巻つくし

【評】手拍子だけの「だけ」がよかった。私の人

生も「だけ」ではいかん。共感しました。

◎佳 作 (20句)

百鬼夜行ふつと私も仲間入り

五所川原 沢田百合子

空っぽの顔で群れるのよしなさい

黒 石 吉田 吹喜

群れかもめ僕だけいつも右を向く

青 森 種市みどり

神々の集い内緒の話する

青 森 三浦 敬光

行列の三途の川はどこですか

青 森 前田 厚兵

群れるほど淋しさが増す青い春

青 森 碧井 溪翠

老々介護虫の群れと擦れ違う

黒 石 三浦 蒼鬼

神様が怖くて群れる癖がつき

黒 石 三浦ひとは

柩から一人去りまた二人去り

弘 前 船水 葉

生きること死ぬこと葦の群れに居る

今 別 木村 花江

◎天 位

八月の余白に群れている螢

青 森 野沢 省悟

【評】群れている螢よりも八月の余白に螢を追

やってしまった身勝手な人間への怒り。そんな人

間は許さない、これがものすごく強く伝わってき

ました。

◎秀 逸 (5句)

人群れて口笛みんな忘れてる

青 森 渡辺 敏子

わっしょいわっしょいみんなどこかへ行つち

やった

八 戸 笹田かなえ

燃料は笑顔だけです縄電車

東 北 井上 健蔵

本当は好戦的な群れる鳩

神奈川・伊勢原 佐々木一彦

知恵の輪が解けぬ子街に吹きだまる

五所川原 佐藤ぶんじ

特別選 「群れる」

◎地 位

タンポポがわつと咲いてる泣いている

黒 石 岩崎 雪洲

【評】わつと咲くにぎやかさと、泣いている。こ

の組み合わせがドラマチックで好きです。

特別選「群れる」

風を読むことに気がつく昼休み

むつ 高田寄生木

鳥瞰図欲望アリのように群れ

神奈川・鎌倉 近藤 良樹

群れ方はいろいろ豹柄花柄

静岡・長泉 米山明日歌

保護色に群れて独りのレクイエム

五所川原 白川 莫

どんぐりころころ群れで孤独を抱いている

岩手・洋野 野口 一滴

群衆の闇からヌツと立ちネブタ

五所川原 櫛引八千代

奔流を目指す小川の泡の群れ

むつ 高橋 星湖

ガード下五百羅漢になっている

つがる 濱山 哲也

キャラバンの駱駝は月にしゃがみ込む

弘前 則田 椿

枯れ芒群れてはみだが落ち着かぬ

つがる 高橋せい子

宿題「歯」

◎秀 逸（5句）

嘘ついた日は念入りに歯を磨く

深浦 野呂 吞舟

ピノキオの鼻に乳歯が引っ掛かる

青森 工藤 青夏

富士 慕情 氏

満月にまでも歯向かう独楽ネズミ

むさし 氏

弘前 吉川ひとし

論客のホオジロザメは歯周病

つがる 濱山 哲也

（二氏共同選）

牙二本抜けて人間らしくなる

蓬田 むさし

歯車の中に紛れたユダの顔

五所川原 太田 卓也

富士 慕情 氏 選

擦り減った奥歯で妻と子を守る

青森 種市みどり

歯噛みした怒りを起爆剤にする

八戸 田鎖 晴天

◎天 位

縄文の歯型で解る食文化

観覧車ゆつくり歯車が狂う

八戸 笹田かなえ

抜歯跡ひつじ百匹通りやんせ

今別 木村 花江

青森 可井さくら

虫歯ならあります僕は文化人

青森 三浦 敬光

◎地 位

拷問に耐える覚悟で歯の治療

◎佳 作（20句）

無に還える日まで歯痛治らない

弘前 須郷 井蛙

十和田 佐藤 允昭

すぐ乾く言葉を知っている奥歯

静岡・長泉 米山明日歌

歯ぎしりが今は恋しい百箇日

くりかえす論議歯がゆさだけ残る

黒石 柳田 健二

◎人 位

フクシマに末代残る負の歯形

未消化のままの恋です義歯の鬱

青森 福井 陽雪

引き出しの削りナイフは錆びてない

青森 寺田 功

青森 山本 弘志

五所川原 白川 莫

歯形つけ桃は誰にも渡さない

脱皮することを拒んでいる奥歯

弘前 齋藤 紀

宿題「歯」

岩手・洋野 野口 一滴

青森 野沢 省悟

宿題「歯」

目立て屋に昔の僕を持っていく

黒石 岩崎 雪洲

抜け落ちる記憶歯型はつけておく

青森 守田 啓子

老いの身に美学のひとつ歯が笑う

青森 新山風太郎

白い歯の球児見事な逆転打

弘前 斉藤 昶

歯も立たぬそれでも向かう特攻機

青森 柴田 重虎

◎人 位

脱皮することを拒んでいる奥歯

青森 野沢 省悟

◎秀 逸（5句）

人間嫌いになってしまった糸切り歯

青森 田沢 恒坊

入歯外すと浦島太郎になる

弘前 福士 慕情

サメの歯に辺野古の珊瑚引つかかる

弘前 船水 葉

「戦争反対」を連呼している総入れ歯

青森 田沢 恒坊

歯ブラシの隙間でもがく自衛権

五所川原 櫛引八千代

◎佳 作（20句）

歯ブラシ二本綾取りうまくなれますか

黒石 三浦 蒼鬼

歯車と知ったその日の油蟬

むつ 高橋 樟

にんげんの滓だけ溜まる永久歯

弘前 千島 鉄男

歯形つけ桃は誰にも渡さない

岩手・洋野 野口 一滴

送り火の白を連ねている歯型

黒石 岩崎眞里子

美しい歯型をつけて帰します

岩手・一関 田中 苑子

論客のホオジロザメは歯周病

つがる 濱山 哲也

抜歯跡ひつじ百匹通りやんせ

今別 木村 花江

白い歯を信じたままの曼珠沙華

青森 種市みどり

戦争を知らないこども明日抜歯

つがる 鳴海 賢治

観覧車ゆつくり歯車が狂う

八戸 笹田かなえ

大人です歯ぎしりなんかしてません

青森 碧井 溪翠

嫁して五年八重歯も牙になりました

青森 碧井 溪翠

む さ し 氏 選

◎天 位

止まらない歯車みんなヒトらしい

五所川原 成田 我楽

◎地 位

八重歯からときどき僕が落っこちる

今別 木村 花江

頭から齧るイワシも憲法も

弘前 高瀬 霜石

ハイチーズ遺影はこれでどうでしょう

黒石 吉田 吹喜

にんげんを見おろしているゴリラの歯

むつ 高田 寄生木

歯並びがいいと褒めたら噛みついた

青森 三浦 敬光

歯車が軋む本音が熟している

弘前 三浦 ひと

忘れた言葉奥歯に絡み付く

青森 千葉 かほる

抜け落ちる記憶歯型はつけておく

青森 守田 啓子

宿題 「疼く」

◎秀 逸（5句）

新安保大根めしが甦る

失った乳房が疼く 母でいる

弘前 須郷 井蛙

青森 鈴木 貴子

少年の地図に発芽の音がする

さつきまで泣いた小指がまた疼く

東北 井上 健蔵

櫛引八千代 氏
千島 鉄男 氏

弘前 須藤しんのすけ

産道が疼く兵隊生まれそう

(二氏共同選)

背が疼く指されたらしい後ろ指

八戸 田鎖 晴天

いじめっこでした抜けない棘がある
蓬田 坂本 勝子

櫛引八千代 氏 選

古傷を起こしてしまふ蛩蘭

五所川原 佐藤寿見子

満潮になると土偶の乳が張る
五所川原 沢田百合子

◎天 位

耳疼く亡母がどこかで泣くのです

黒石 三浦ひとは

テロリストだらけで焦げる世界地図
つがる 濱山 哲也

選挙権持った子供の偏頭痛

黒石 吉田 吹喜

はしゃぐだけはしゃいだ指が疼く朝
弘前 千島 鉄男

◎地 位

◎佳 作（20句）

静岡・長泉 米山明日歌

みんな笑って桃の傷には気づかない

優しくはなれず介護の指疼く

弘前 船水 葉

言い勝てばケラケラ月が刺してくる

青森 福井 陽雪

天皇の奥歯が戦後から疼く

弘前 船水 葉

再稼働すれば奥歯が疼きだす
青森 工藤 青夏

◎人 位

時効ない疼きが続くヒロシマ忌

青森 三浦 敬光

遠い日の記憶が疼く青春譜
青森 田沢 恒坊

重箱の隅で疼いている昭和

根毛の疼き樹木が背伸びする

弘前 齊藤 焔

キュンとして指輪交換その後は…

南部 八木田幸子

五所川原 成田 我楽

つがる 高橋せい子

五所川原 成田 我楽

つがる 高橋せい子

宿題「疼く」

籠の中の飛べない僕を射す朝日

鶴 田 工藤まさひろ

古傷に探りを入れる嫌な奴

青 森 前田 悠遊

まだ疼く七十年という節目

十和田 佐藤 允昭

桃の皮剥くと疼いた痕がある

青 森 滋野 さち

前頭葉が疼き眠れぬ蕎麦枕

黒 石 三浦 蒼鬼

◎人 位

怒らせてしまったらしい月に暈

青 森 熊谷 冬鼓

桃の皮剥くと疼いた痕がある

青 森 滋野 さち

キャンバスにちひろの小さい瞳の疼き

む つ 高田 和子

傷口のはるか沖から来る疼き

蓬 田 む さ し

八月忌胸の疼きを聞いている

今 別 木村 花江

こめかみに蟬とまらせて森を出る

五所川原 佐藤寿見子

みんな笑って桃の傷には気づかない

青 森 福井 陽雪

コーティングしたのよ疼かないように

八 戸 笹田かなえ

人を踏む段々疼く土踏まず

弘 前 内山 孤遊

瘡蓋を剥げば疼いてくる微罪

弘 前 富士 慕情

割れガラス疼く昨日のわだかまり

岩手・洋野 野口 一滴

言い勝てばケラケラ月が刺してくる

青 森 工藤 青夏

千島 鉄男 氏 選

◎天 位

鍔釜の焦げたあたりが疼きます

青 森 守田 啓子

◎佳 作 (20句)

時効ない疼きが続くヒロシマ忌

弘 前 齊藤 紀

◎地 位

いじめっこでした抜けない棘がある

ちっぽけな不実の虫を飼っている

五所川原 沢田百合子

む つ 高田寄生木

宿題「疼く」

飲み込んだ本音ギリリと疼いてる

神奈川・伊勢原 佐々木一彦

一本のナイフに星が映らない

青森 野沢 省悟

鍵穴に触れると過去が疼き出す

五所川原 太田 卓也

人間に触れてためらい傷が病む

黒石 千葉 風樹

さよならは降り止む事のない疼き

弘前 則田 椿

エンディングノートの刃こぼれが疼く

青森 菊池 京

古傷にいまでも軍歌棲んでいる

黒石 柳田 健二

宿題 「一寸先は闇」

◎秀 逸 (5句)

ひまわりが咲いた原発再稼働

青 森 野沢 省悟

有頂天のカラスが喰らう豆鉄砲

五所川原 白川 莫

佐藤 允昭 氏

一寸先の闇の先にも蛍の灯

高瀬 霜石 氏

む つ 高橋 星湖

岩手・洋野 野口 一滴

(二氏共同選)

保証印ここから続く不眠症

弘 前 須郷 井蛙

青 森 まきこ

佐藤 允昭 氏 選

本当の幸せ見えた闇の中

青 森 種市みどり

青 森 福井 陽雪

◎天 位

カルテから満ち足りた日々転げ落ち

晩酌のうまさ戒名もらうまで

蓬 田 坂本 勝子

黒 石 三浦 蒼鬼

黒 石 柳田 健二

聴診器が時々暴言を吐く

青 森 神 千巖

誰もが行く誰も知らない先の事

大吉を引いて石段踏みはずす

青 森 鈴木 貴子

闇照らすサーチライトの妻が居る

南 部 八木田幸子

青 森 池 汀柳

有頂天死角に有った落し穴

弘 前 福士 慕情

お茶漬を啜り戦士の顔になる

弘 前 吉川ひとし

◎人 位

また病一つ加わる蟬時雨

足許の画鋏が天を向いている

青 森 工藤 青夏

不運かも知れぬ明日が待っている

八 戸 豊巻つくし

岩手・一関 田中 苑子

だからって打ち水だけはしておいた

今 別 木村 花江

パスワード記憶もメモも闇の中

青 森 前田 悠遊

高齢者四人に一人という足場

青森 熊谷 冬鼓

騙し絵の中の理想を追いかける

五所川原 太田 卓也

一寸先の闇へ握りめしを背負う

黒石 千葉 風樹

四度目は仏の顔も夜叉になる

青森 千葉かほる

今日も又ダブル介護に追われてる

青森 村上あつこ

◎人 位

いつてらっしやい今日は鰻よビールもね

青森 池 汀柳

闇の先知りたい方は別室へ

青森 村田けん一

戦争にも行きます自衛官募集

青森 田沢 恒坊

結局はジャンケンポンで決められる

五所川原 佐藤寿見子

墓標しか見えない窓がひとつある

弘前 千島 鉄男

大丈夫くらい危ないものはない

むつ 高橋 樟

◎天 位

青森 まきこ

◎佳 作(20句)

九条が決壊します天の川

青森 滋野 さち

◎地 位

つがる 高橋せい子

目覚めたらICUに僕がいた

青森 種市みどり

死神が突如来て張る鯨幕

青森 鈴木みさを

わたくしが括られている介護法

青森 渡辺 敏子

足許の画鋏が天を向いている

青森 工藤 青夏

目の前の三途の川に気づかない

大鰐 香田 龍馬

断崖でどこでもドアを渡される

青森 守田 啓子

大吉を引いて石段踏みはずす

青森 鈴木 貴子

騙されたふりして僕をだましてる

青森 前田 厚兵

第四コーナーで飯粒を踏んだ

青森 菊池 京

未来図の僕が消えてるかくれんぼ

青森 新山風太郎

ひまわりが咲いた原発再稼働

青森 野沢 省悟

ぼつたりとソフトクリーム溶け落ちる

八戸 笹田かなえ

手探りの先に熱帯低気圧

つがる 鳴海 賢治

目覚めない朝に備えて生きている

青 森 福井 陽雪

闇一枚ぬける貴方の手をさがす

五所川原 櫛引八千代

躓いて思わず掴む隣の手

黒 石 三浦ひとは

ヒツウチの受話器取ろうか取るまいか

青 森 三橋 聖

日々勝負勝負。パンツを今日も穿く

静岡・長泉 米山明日歌

天国で乗り替え地獄行きでした

五所川原 沢田百合子

宿題 「リズムカル」

◎秀 逸 (5句)

真つ白なダンスシューズの白い傷

彫る志功彫られる板木笑む菩薩

弘 前 須藤しんのすけ

青 森 山本 弘志

黄昏の一日ゆつくり攪拌す

弘 前 稲見 則彦

野沢 省悟 氏
岩崎 雪洲 氏

青 森 吉見 恵子

人工呼吸器闇を重ねている音だ

(二氏共同選)

ザックザックと軍靴のリズム夢に来る

弘 前 内山 孤遊

青 森 吉田 州花

軽快なリズムで老いが背に迫る

野沢 省悟 氏 選

ワイパーの二拍子かなりきな臭い

青 森 まきこ

五所川原 成田 我楽

メトロノーム例えばの話に揺れる

◎天 位

終活のリズム三三七拍子

青 森 菊池 京

笑えるだけ笑う鼓動のあるうちに

神奈川・平塚 杉山 昌善

後方支援進める三・三・七拍子

八戸 田鎖 晴天

青 森 滋野 さち

羊水の中で聴いてた笛太鼓

◎地 位

◎佳 作 (20句)

五所川原 白川 莫

七十年の夏さらさらとのり茶漬

まないたのリズム殺意はないらしい

眠れない枕を通る長い貨車

青 森 福田 文音

黒 石 柳田 健二

青 森 熊谷 冬鼓

タンゴからボレロへそして摩訶般若

傘を打つ雨が私を掻き乱す

◎人 位

蓬 田 むさし

青 森 千葉かほる

胸の水春の小川になる言葉

鳳仙花ぼんと弾けていく輪廻

はとぽつぽお薬手帳そらやるぞ

静岡・長泉 米山明日歌

弘 前 齊藤 焔

東北 井上 健蔵

スィングをしているひとりきりのひる

血が踊る祭り囃子の笛の音に

む つ 高田寄生木

青 森 村上あつこ

宿題「リズムカル」

ハイハイと言わされて買う羽布団

岩手・一閑 田中 苑子

鼻歌を炭酸割りで飲んでる

黒石 岩崎 雪洲

胎動が母を呼んでる八ヶ月

青森 柴田 重虎

花まるとスキップしてるランドセル

五所川原 櫛引八千代

生きて行くリズムで叩かれる木魚

弘前 吉川ひとし

◎人 位

眠れない枕を通る長い貨車

青森 熊谷 冬鼓

◎秀 逸(5句)

駅そばの今日を五分で食べている

むつ 高田 和子

定年後はスーダラ節で舟を漕ぐ

五所川原 沢田百合子

やわらかなワルツで母の返し縫い

黒石 千葉 風樹

肩の上小さいこぶしトントントン

青森 鈴木 貴子

ヒール音低いドになり母になる

大鰐 村井 規子

◎佳 作(20句)

平凡にドレミドレミで生きてます

埼玉・川口 迫 好子

生きて行くリズムで叩かれる木魚

弘前 吉川ひとし

人工呼吸器閤を重ねている音だ

弘前 内山 孤遊

鳳仙花ぽんと弾けていく輪廻

弘前 斉藤 焔

軽快なリズムに音痴のせられる

八戸 豊巻つくし

年金の歩幅で歩く心太

青森 野沢 省悟

ほうれい線の上でホクロのリズムカル

今別 木村 花江

八十才母の耕す波の畝

青森 渡辺 敏子

しばらくはねぶたのリズムの台所

黒石 吉田 吹喜

軽快なリズムで老いが背に迫る

青森 まきこ

夜行寝台に揺られ記憶も溶けていた

弘前 稲見 則彦

良き日と木魚は安眠剤である

青森 山本 弘志

スキップの先に昨日が待っている

黒石 柳田 健二

岩崎 雪洲 氏 選

◎天 位

両足が今朝はとっても仲がいい

黒石 三浦ひとは

◎地 位

新しいリズムで来たな不整脈

弘前 齋藤 紀

宿題「リズムカル」

変わらない振り子時計の音がする

五所川原 太田 卓也

盆踊りほどのテンポでよく馴染む

青 森 熊谷 冬鼓

水面を転がる石の青春譜

青 森 福井 陽雪

夕焼けから飛び出してくる鼓笛隊

青 森 守田 啓子

恋成就スタックカートで靴が鳴る

む つ 高橋 星湖

腰のあたりでサンバが狂うカーニバル

青 森 池 汀柳

パチンコ屋の軍艦マーチに乗せられる

五所川原 櫛引八千代

席題A 「アンテナ」

◎秀 逸（5句）

くたびれたアンテナ鳥の声を聴く

アンテナに昨日の恋が干してある

神奈川・平塚 杉山 昌善

むつ 高田寄生木

風雪にプラチナ色の猫のひげ

青 森 吉見 恵子

朝顔をアンテナとして植えました

天敵へ立てる兎の長い耳

青 森 吉見 恵子

鶴田 松山 芳生

日々好日アンテナの錆気にしない

八戸 田鎖 晴天

田鎖 晴天 氏
（二氏共同選）

全身がアンテナだった少年期

この指に止ってくれたのはカラス

黒石 柳田 健二

青 森 福井 陽雪

地獄耳用の背すじだ伸ばさねば

青 森 山本 弘志

吉田 州花 氏 選

アンテナが空を支えているのです

母からの送受信波は途切れない

青 森 熊谷 冬鼓

黒石 吉田 吹喜

母のアンテナ目ざして僕は生まれ来た

青 森 工藤 青夏

◎天 位

旅をしています修司の詩の一行と

アンテナの代りにじつと立っている

一面のススキが僕のアンテナだ

青 森 成田 我楽

青 森 野沢 省悟

蓬田 むさし

それぞれの綿毛にセピア色の呪文

青 森 菊池 京

◎地 位

受信する鶏冠トサカは僕にだってある

齢の数だけアンテナを持たされる

アンテナの最期どこまでも群青

青 森 成田 我楽

弘前 千島 鉄男

弘前 千島 鉄男

東北 井上 健蔵

携帯は生きるアンテナかたつむり

五所川原

成田 我楽

岩手・洋野 野口 一滴

蓬田 むさし

アンテナは明日しずかに畳まれる

アンテナを張って飛び出すまでは晴

それぞれの綿毛にセピア色の呪文

青 森 菊池 京

神奈川・横浜 芝岡勘右衛門

むつ 高田 和子

磨かねば錆びる無職というアンテナ

それぞれの綿毛にセピア色の呪文

青 森 菊池 京

席題A「アンテナ」

スマートフォン母のアンテナ舞う宇宙

青森 前田 悠遊

一瞬で受信しました恋でした

藤崎 佐藤 雅秀

周波数がアリスの国とピタリ合う

東北 井上 健蔵

吾亦紅彼岸の便り受けて揺れ

青森 碧井 溪翠

アンテナが錆びるぐるぐるり過疎

弘前 高瀬 霜石

◎人 位

アンテナが空を支えているのです

黒石 吉田 吹喜

◎秀 逸(5句)

地球儀を囲む楽しいアンテナで

大鰐 香田 龍馬

アンテナも柩に入れてやるかしこ

南部 八木田幸子

受信する鶏冠トサカは僕にだってある

弘前 千島 鉄男

一瞬で受信しました恋でした

藤崎 佐藤 雅秀

アンテナを張って冴えてる妻の勘

八戸 豊巻つくし

◎佳 作(20句)

アンテナを高くしているまだ生きる

岩手・一関 田中 苑子

日々好日アンテナの錆気にしない

黒石 柳田 健二

アンテナに昨日の恋が干してある

神奈川・平塚 杉山 昌善

交信しますこの世のひとつじゃないひとと

弘前 高瀬 霜石

周波数がアリスの国とピタリ合う

東北 井上 健蔵

アンテナの角度を変えて夢を見る

青森 太田 久

晩学に古いアンテナ取り替える

青森 三浦 敬光

アンテナが錆びて世の中狭くなる

弘前 福士 慕情

人間不信裏を取る癖治らない

黒石 柳田 健二

アンテナが届かぬ位置で策を練る

弘前 須郷 井蛙

アンテナの手入れ欠かさぬ風見鶏

五所川原 太田 卓也

侮られぬようにアンテナ張っておく

つがる 高橋せい子

アンテナに止まる鴉はクレマー

青森 吉田 州花

田鎖 晴天 氏 選

◎天 位

全身がアンテナだった少年期

青森 福井 陽雪

◎地 位

アンテナが味方の貌で伸びてくる

黒石 三浦 蒼鬼

母からの送受信波は途切れない

青 森 工藤 青夏

アンテナは故郷の母に向いている

神奈川・伊勢原 佐々木一彦

折れそうになる日のアンテナを父に向け

黒 石 三浦 蒼鬼

触角は生きる武器ですかたつむり

岩手・洋野 野口 一滴

第六感冴えて獣に近くなる

青 森 碧井 溪翠

象のオリ解体しても生臭い

青 森 村田けん一

アンテナショップ津軽訛りがすぐ売れる

五所川原 櫛引八千代

席題B 「痛い」

佐藤ぶんじ氏選

佐藤ぶんじ氏
工藤 青夏氏
(二氏共同選)

◎天 位

横顔は痛み悟った夜又である

五所川原 櫛引八千代

◎地 位

なんとたつて一番痛いのは言葉

黒石 吉田 吹喜

◎人 位

逢いたさは桜はらはら散る痛み

青森 吉田 州花

◎秀 逸 (5句)

拷問ともなる優しさだつてある

青森 山本 弘志

影踏みがためらい傷を踏みにくる

黒石 千葉 風樹

樹海から出てきた足に棘がある

弘前 千島 鉄男

耐えてますまだ美しく咲くために

五所川原 沢田百合子

ちっぽけな嘘が溶けない角砂糖

むつ 高田 和子

ひよつとこの顔で凶星を突いてくる

つがる 濱山 哲也

母さんは生んだ痛みを忘れない

むつ 高橋 星湖

慰謝料が思いがけずに高くつき

神奈川・鎌倉 近藤 良樹

注射っていつになつたらなくなるの

黒石 吉田 吹喜

ジョーカーを君に贈った日の痛み

五所川原 成田 我楽

五所川原 櫛引八千代

岩手・一関 田中 苑子

◎佳 作 (20句)

独走をしてきた影が動かない

弘前 千島 鉄男

痛いのはこころご免が聞きたくて

南部 八木田幸子

反省も謝罪も舌の根が痛い

青森 滋野 さち

正義って奴には棘があるんだね

弘前 内山 孤遊

がまん強い握りこぶしが抱く火種

五所川原 櫛引八千代

ライバルの鉛筆が突く泣き所

大鰐 香田 龍馬

記憶の灯薄れる様を見る辛さ

青森 鈴木みさを

樹海から陣痛の音洩れてくる

五所川原 白川 莫

席題B「痛い」

土下座したところは茨の道だった

◎人 位

つがる 鳴海 賢治

正義って奴には棘があるんだね

生きている証縫い目にある痛み

弘前 内山 孤遊

本心は切腹したい落椿

青森 太田 久

青森 三浦 敬光

片頭痛また一波乱ありそう

ガチガチの豆腐の角に突き当たる

弘前 船水 葉

黒石 岩崎 雪洲

見て見ないふりいじめの端を握ってる

◎秀 逸(5句)

立秋の今日から蟬も痛く鳴き

五所川原 佐藤寿見子

藤崎 佐藤 雅秀

神奈川・平塚 杉山 昌善

当たり散らす胸がこんなに痛むなんて

ジョーカーを君に贈った日の痛み

青森 千葉かほる

五所川原 成田 我楽

わたくしの嘘で傷つくお月さま

鈍痛をやり過ぎそうと売るケンカ

青森 碧井 溪翠

痛い痛いといわたしの河が流れゆく

剥がれば塗る剥がれば塗る メッキ

神奈川・横浜 芝岡勘右衛門

工藤 青夏 氏 選

弘前 高瀬 霜石

片頭痛また一波乱ありそう

樹海から出てきた足に棘がある

弘前 高瀬 霜石

モザイクをかけたところは痛いところ

◎天 位

弘前 千島 鉄男

静岡・長泉 米山明日歌

陣痛だ交響曲が生まれるぞ

秋のカフェ痛い色あり水中花

蓬田 むさし

神奈川・平塚 杉山 昌善

◎佳 作(20句)

痛いとは言わぬ明治の臍である

◎地 位

青森 守田 啓子

南部 八木田幸子

情って爪一枚の引っかかり

ホップステップジャンプ平成の角にぶつかる

青森 菊池 京

青森 吉見 恵子

曖昧なところに爪をたてたから

席題B「痛い」

痛いからスマホの画面消してくれ

青 森 野沢 省悟

ちあきなおみの歌とこぼれている萩と

青 森 野沢 省悟

ひよつとこの顔で凶星を突いてくる

つがる 濱山 哲也

慰謝料が思いがけずに高くつき

神奈川・鎌倉 近藤 良樹

軍服を着た父がいる夏の月

青 森 福井 陽雪

ラブソング無駄にしました茹で卵

青 森 三浦 敬光

傷口に黄な粉をまぶす相聞歌

東北 井上 健蔵